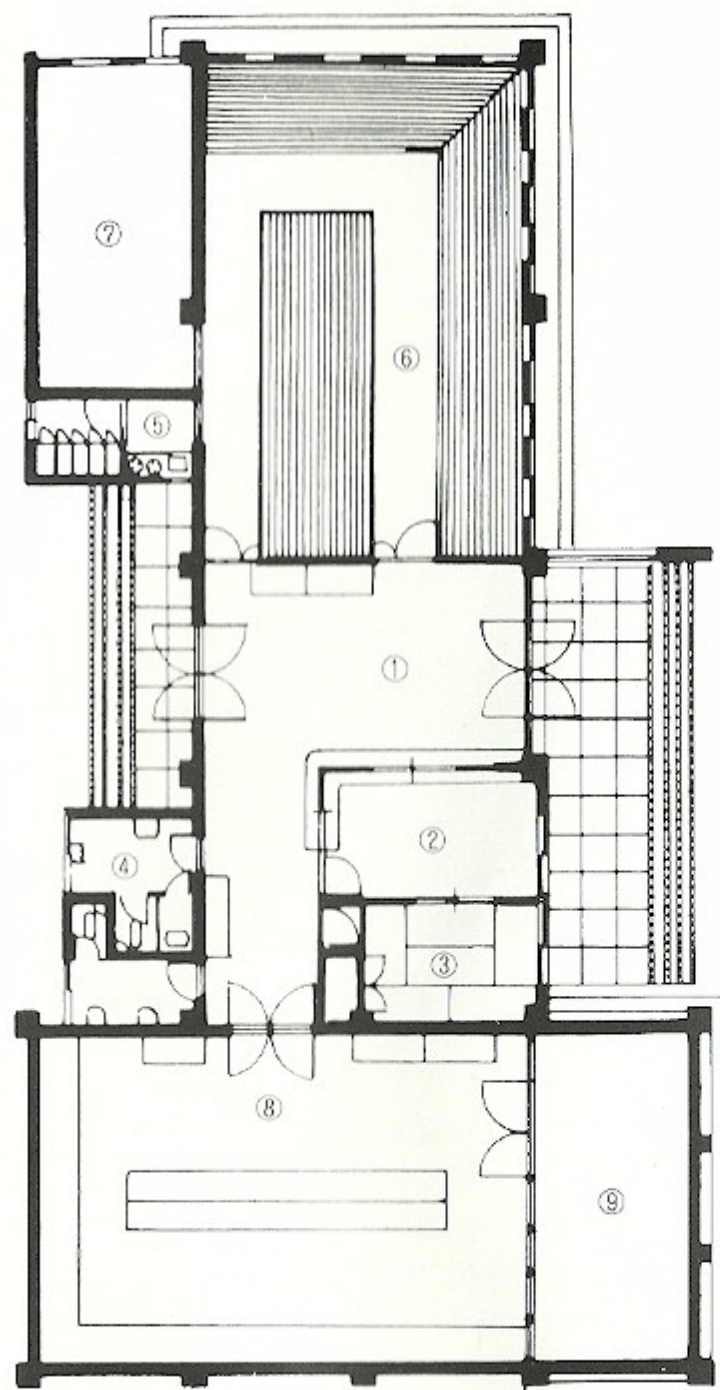


敷地面積 2958.37㎡  
 建築面積 374.16㎡  
 床面積 298.80㎡

- |               |        |          |        |
|---------------|--------|----------|--------|
| 1. ロビー        | 48.06㎡ | 2. 事務室   | 12.15㎡ |
| 3. 宿直室        | 12.15㎡ | 4. トイレ   | 12.60㎡ |
| 5. 湯沸かし室・ロッカー | 6.48㎡  | 6. 第1展示室 | 77.76㎡ |
| 7. 第1収蔵庫      | 25.92㎡ | 8. 第2展示室 | 77.76㎡ |
| 9. 第2収蔵庫      | 25.92㎡ |          |        |

資料館平面図



S=1/200

Usage Guide

利用案内

Open

開館時間

9:00~17:00(入館は16:30分まで)

Closed Mondays & Holidays

休館日

月曜日 12月29日~1月3日

公休日

Admission fee

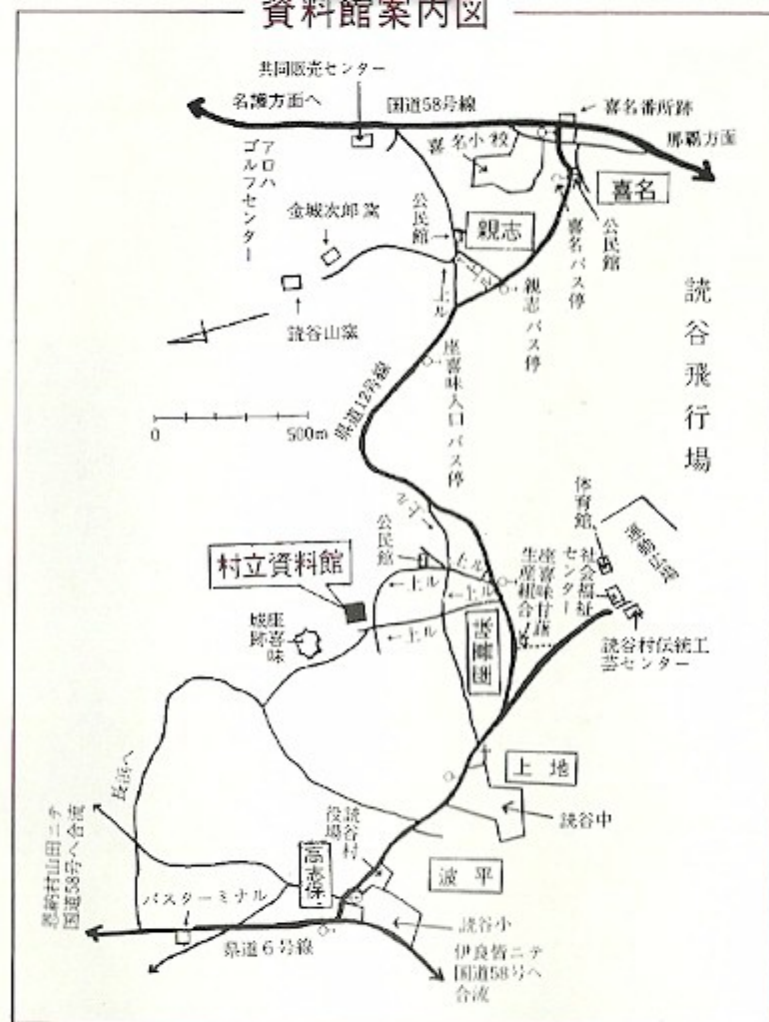
観覧料

大人 50円 Adult / 50 yen

小中高生 30円 Elementary student / 30 yen

Guide Map

資料館案内図

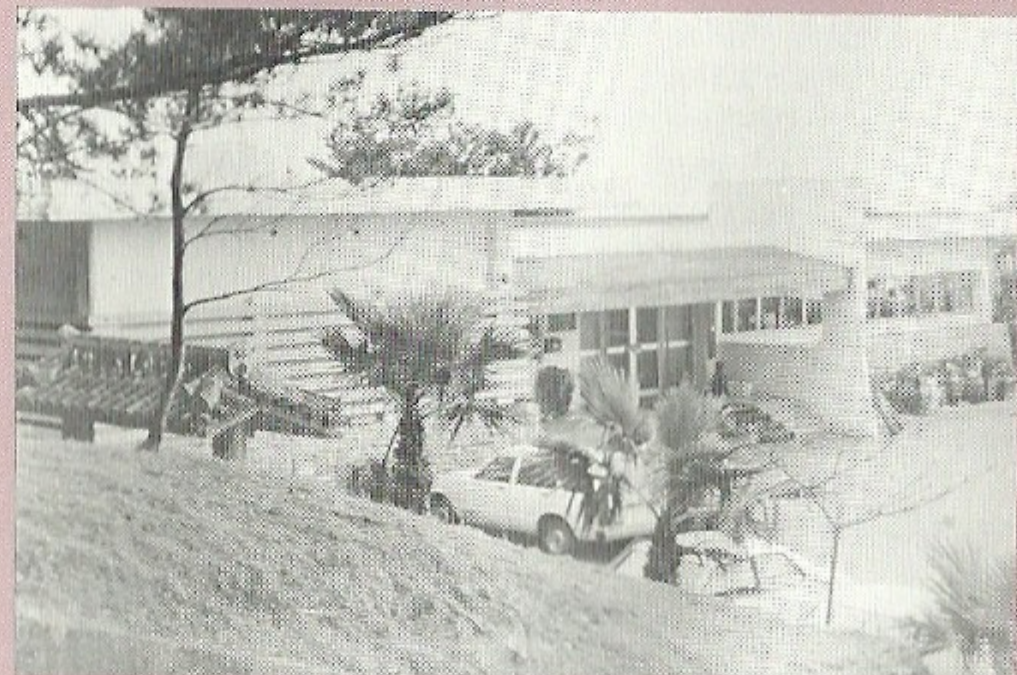


記念にスタンプをどうぞ  
 Please place Memorial Stamp here

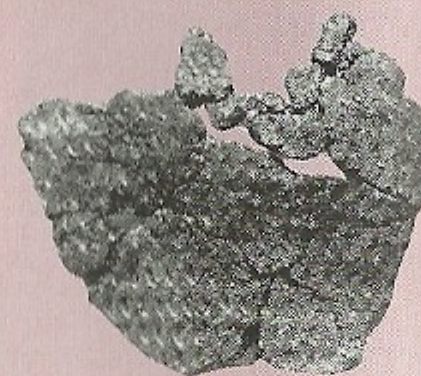
2015

よみ たん そん りつ れき し みん ぞく し りけい かん  
 読谷村立歴史民俗資料館

Yomitan Village Folk Museum



ClickOkinawa.com



爪形文土器



蜂罍式土器

沖縄県読谷村字座喜味708-4番地

電話 09895(8)-3141



## OVERVIEW of the MUSEUM

### 資料館の概要

Opened May 18, 1980

Cost 34.74 million yen

資料館の誕生は昭和46年復帰記念事業の一環として国庫補助金で座喜味城跡周辺を公園用地として購入し、同6月公園計画の中に「民芸館」の構想ができ、同年11月には歴史民俗資料館の具体的計画案が打ち出されたことに始まる。

設計指導は文化庁の半沢技官、建築設計 我那覇設計事務所、施工 日進建設株式会社が当り、昭和49年8月に竣工し、昭和50年5月18日に開館した。総工費3,474万円でそのうち200万円は国庫補助である。

資料収集は昭和49年11月20日を皮切りに連日村内22カ字を各字区長さんと館職員がかけ廻り昭和60年2月末現在民俗資料4,471点、考古資料4,500点が収蔵されている。それらの資料は村内から収集・寄贈されたのが9割、村外は1割となっている。

昭和59年度の1日平均入館者は115人で地域別にみると村内7%、県内（読谷村外）84%、県外9%となっている。

## INTRO to EXHIBITION

### 展示品紹介

#### 第1展示室 First Exhibition Room



First Exhibition Room - Clothing, Industry, etc.

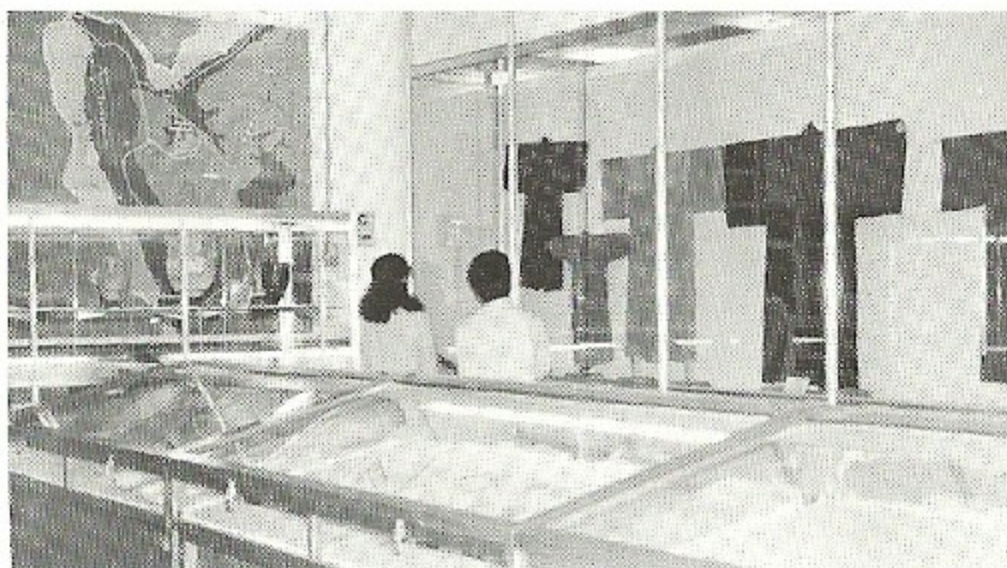
第1展示室 衣・食・生業等展示風景

窓ぎわは3段に台を作り、葬制、衣食住、生業、交通、交易など庶民の生活の中から生まれた民具類約250点を展示してある。展示室中央にはアングル棚を設けて収蔵展示の形をとっている。



Andagami a container for fat, salt and miso  
アンダガミ Sometimes called a "tortoise pot"

#### 第2展示室 Second Exhibition Room

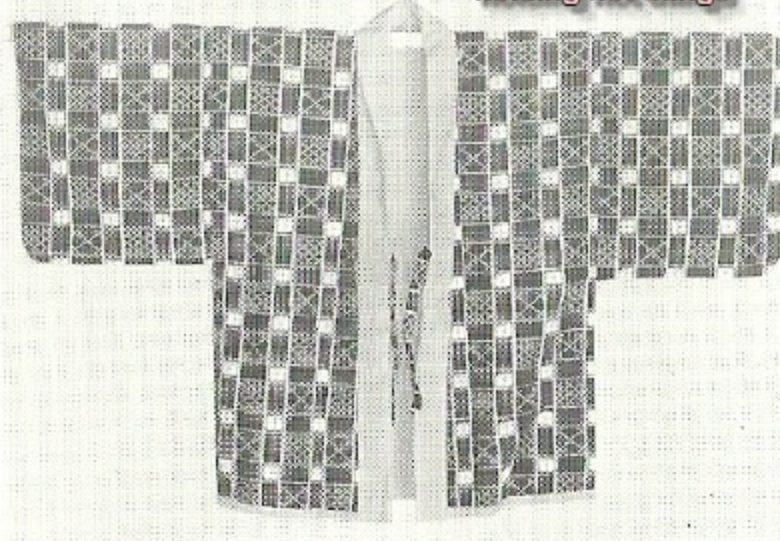


第2展示室 考古資料・衣服展示風景  
Second Exhibition Room - Archaeology materials, clothing, landscape, etc.

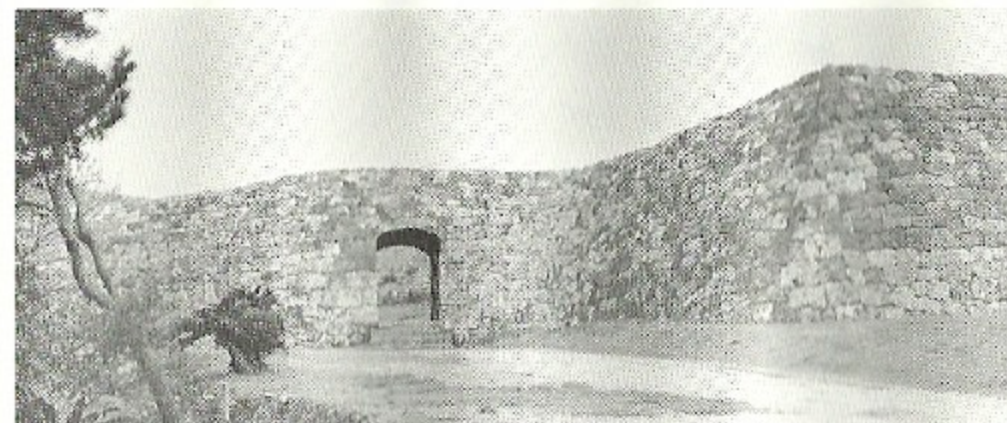
この展示室には、読谷山花織着物・ループク・ウツチャキ、芭蕉着物、木綿着物、喜名焼壺、考古資料として、渡具知東原遺跡や木綿原遺跡、村内諸遺跡から出土した遺物等を展示してある。



喜名焼壺  
Kiyonabe pot - for holding hot things



読谷山花織ループク  
Yomiyama weaving



座喜味城跡  
Zakimi Castle ruins

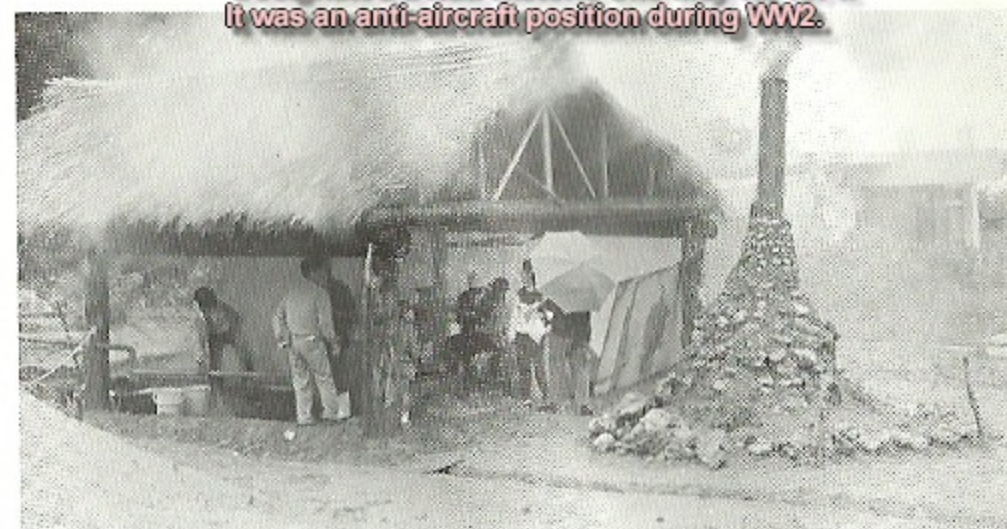
座喜味城跡は座喜味城原の丘陵（標高127m）にあり、15世紀初期（1420年頃）護佐丸によって築かれたといわれる。護佐丸は山田城にいたが、尚巴志の北山討伐に従った後、奄美諸島の人民を徴用して山田城を解体し、その石を手渡しで運ばせ、座喜味城を築いたという。

座喜味城を根拠地とした護佐丸は、眼下の長浜港を利用して南蛮貿易を盛んにしたが、1440年頃に中城へ移ったといわれる。

先の大戦には日本軍の高射砲陣地になり、戦後は米軍基地として接收されたが昭和49年10月に返還された。

座喜味城跡は昭和47年5月15日に国の史跡に指定され、翌年の昭和48年より十年計画で城跡の環境整備事業が国や県の補助を受けて開始され、発掘調査のあと、城壁の修復工事を行なった。

Zakimi Castle is at altitude of 127 meters.  
It was built around 1420 by Gosamaru.  
Designated a Nat. Historic Site May 15, 1974.  
It was an anti-aircraft position during WW2.



サーターヤー  
Satura - Brown Sugar mill

このたび座喜味老人会（会長・真栄田三郎氏）の御協力により、昔ながらのサーターヤー（砂糖小屋）とサーターグルマ（さとうきびを圧搾する車）が昭和59年11月1日に再現されました。

サーター車の台座は石製で座喜味部落から、歯車は宇座部落からそれぞれ寄贈されたものです。実際にサーター車を回し、さとうきびを圧搾して汁を搾り、それを砂糖鍋で煮つめてなつかしいサーター（黒糖）作りも試みています。